

知^し得^{とく}

知^しって
ちよ^とっと
得意^{とく}になれる!

文化財

第36回

このコーナーでは、子どもたちにわがまち川越のことを知ってほしいとの思いから、川越の文化財をわかりやすく紹介します。

上^{うわ}戸^ど小^{しょう}学^{がっこう}校^{こう}の西^{にし}側^{がわ}にある国^{くに}指^し定^{てい}史^し跡^{せき}河^か越^え館^{くわん}跡^{せき}には、鎌^{かま}倉^{くら}時^じ代^{だい}に活^{かつ}躍^{やく}した武^む士^し河^か越^え氏^しの館^{くわん}が有^ありま^した。発^{はつ}掘^{くつ}調^{てい}査^さでは、その^{そこ}ろに造^{つく}ら^れた堀^{ほり}跡^{あと}がみ^みつ^かか^ってい^ます。上^{うわ}幅^{はば}が6~8mで、深^{ふか}さは2m程^{ほど}度^ど。堀^{ほり}底^{そこ}が狭^{せま}くV^いの字^じ形^{けい}の断^{たん}面^{めん}をしてい^ます。堀^{ほり}の脇^{わき}には掘^くった土^{つち}を盛^もり上^あげ^た「土^ど壘^{らい}」とよ^よば^れる土^ど手^てがあ^あつ^たと考^{かん}え^られ、実^{じつ}質^{しつ}的^{てき}には底^{そこ}か^から4m程^{ほど}の斜^{しゃ}面^{めん}を登^{のぼ}らな^けれ^ば、敵^{てき}は中^{なか}に入^{はい}れな^かつ^たこ^ことでし^よう。



戦^{せん}国^{こく}時^じ代^{だい}の障^{しょう}子^じ堀^{ぼり}（川^か越^え城^{じょう}跡^{せき}）…堀^{ほり}底^{そこ}に四^し角^{かく}い^い穴^{あな}が掘^くら^れてい^ます。

江^え戸^ど時^じ代^{だい}にな^なると、い^いく^くさ^さがな^ない世^よの中^{ちゅう}にな^なつ^たので、城^{じょう}は戦^{せん}争^{そう}のた^ため^めでな^なく、そ^そこに住^すむ大^{だい}名^{めい}の格^{かく}を^を示^しすた^ため^めのシ^しン^{しん}ボ^ぼル^るにな^なりま^ました。堀^{ほり}は敵^{てき}を^を防^{ぼう}ぐた^ため^めの急^{きゅう}斜^{しゃ}面^{めん}でな^なく、緩^{ゆる}やかな崩^{くずれ}れに^にく^くい斜^{しゃ}面^{めん}で造^{つく}ら^れるよ^ようにな^なりま^ました。

武^む士^しの住^すまいを^を守^{まも}るた^ため^めの堀^{ほり}は、時^じ代^{だい}によ^よつ^て形^{かたち}を^を変^かえ^てい^いき^ました。整^{せい}備^びさ^された堀^{ほり}跡^{せき}は、河^か越^え館^{くわん}跡^{せき}史^し跡^{せき}公^{こう}園^{えん}や川^か越^え城^{じょう}中^{ちゅう}ノ門^{もん}堀^{ぼり}跡^{せき}で^で見^みるこ^ことが^がで^でき^ます。

「堀」のはなし

「い^いく^くさ^さ」を^を仕^し事^{ごと}と^とす^する武^ぶ士^した^たち^ちは、住^すまい^{まい}（館^{くわん}）の^のま^まわり^りに「堀^{ほり}」を^を掘^ほつ^て、敵^{てき}に^に攻^せめ^め込^こま^まれ^れな^ないよ^よう、工^く夫^{ふう}し^しま^ました。館^{くわん}は^はや^やが^がて城^{じょう}とな^なり、大^{おほ}き^きく、よ^より攻^せめ^め込^こま^まれ^れな^ないよ^ような堀^{ほり}が^が造^{つく}ら^れるよ^ようにな^なりま^ました。



鎌^{かま}倉^{くら}時^じ代^{だい}の堀^{ほり}跡^{せき}（河^か越^え館^{くわん}跡^{せき}）…斜^{しゃ}面^{めん}が急^{きゅう}で、堀^{ほり}底^{そこ}が狭^{せま}い。

川^か越^え城^{じょう}は室^{むろ}町^{まち}時^じ代^{だい}中^{ちゅう}頃^{こう}に上^う杉^{すぎ}持^{もち}朝^{あさ}の命^{めい}によ^より太^お田^た道^{どう}真^ま・道^{どう}灌^{くわん}父^ふ子^しらによ^よつ^て造^{つく}ら^れま^ました^たが、戦^{せん}国^{こく}時^じ代^{だい}に北^{ほく}条^{じょう}氏^しが奪^{うば}い^とり^とり、川^か越^え城^{じょう}はよ^よりい^いく^くさ^さ向^むき^きの城^{じょう}に^に造^{つく}り^かえ^えら^れま^ました。堀^{ほり}の^の一^{いち}部^ぶには堀^{ほり}底^{そこ}に四^し角^{かく}い^い穴^{あな}を^を並^{なら}べ^て掘^くった「障^{しょう}子^じ堀^{ぼり}」とよ^よば^れる変^かわ^わつ^た堀^{ぼり}が設^たけ^けら^れま^ました。田^あん^ぜぼ^のよ^ように^に畔^{あな}道^{みち}が^が残^{のこ}つ^たよ^よう^うが障^{しょう}子^じのよ^ように^に見^みえ^えるた^ため、こ^この^の名^なが^がつ^つけ^けら^れま^ました^たが、畔^{あな}を^を踏^ふみ^み外^{はず}す^すとすり鉢^{はち}のよ^ような^な穴^{あな}の中^{ちゅう}に^に落^おち^ちる^るので、敵^{てき}は一^{いち}列^{れつ}に^に並^{なら}ん^で歩^{ある}く^くしか^かあ^あり^りま^ませ^せん。



江^え戸^ど時^じ代^{だい}の堀^{ほり}（整^{せい}備^び前^{まへ}の「中^{ちゅう}ノ門^{もん}堀^{ぼり}」）…鎌^{かま}倉^{くら}時^じ代^{だい}に^に比^ひべ^べて^て斜^{しゃ}面^{めん}が^が緩^{ゆる}やか^か。

教育相談Q&A

◆家庭学習のやり方がわからない小学生

【Q】小学5年生の娘を持つ親です。

娘は毎日しっかりと宿題に取り組んでいます。宿題が終わると、それ以上勉強をしようと思わず、自分で考えて学習をするということができないようです。娘に理由を聞くと、「なにをどのように学習してよいかわからない。」と答えます。このままだとこれからはますます難しくなる学習についていけるか心配です。親としてどのようにアドバイスをしたらよいでしょうか。

【A】小学校では高学年になると学習の難易度が大きく上がり、この時期を境に学習に対する苦手意識をもつお子さんも少なくありません。

宿題に加え、自分で考えコツコツと主体的に家庭学習に取り組むことが学力向上につながります。そこで、お子さんに次のようなアドバイスをしてみたいかががでしょうか。

①まず学校で学んだことを「復習」しましょう。

学習の基本は学校での授業です。学校での学びを大切にし、その日に学んだことをすぐに復習すること、内容がしっかりと定着していきます。少し時間を空けて、週末にその週に学んだことを再度ふりかえるとより効果的です。

具体的な方法としては、その日学校で受けた授

業の内容を1時間目から順番にノートに整理してみましよう。その際、誰かに教えることを意識し、それをもとに実際にお家の方に伝えると親子のコミュニケーションとお子さんの学力の把握にもつながり、より一層の理解と定着が期待できます。

教科書の練習問題など、特にできなかった問題に絞って、再度解いてみる、5分以上考えてわからないようであれば、翌日担任の先生に質問をするという取組も効果的です。

②余裕があれば予習にも取り組んでみましょう。

予習を行うと、翌日の授業で自分がわからないところがはつきりとし、明確な目的意識をもって学習に臨むことができます。手順として、まず教科書を読み、大切だと思われるところ、特にわからなかったところに印をつけましょう。その際、言葉や単語など、辞書を引いて自分で答えがわかるものは進んで意味を調べましょう。学校の先生によっては授業の進め方によって予習のやり方が変わってくる場合があるので、1度相談をするとういでしょう。

③計画表をつくり計画的に取り組みましょう。

自主学習で行うことが決まったら、めあてと見通しをもって計画的に取り組ましましょう。その際、漠然としたものではなく、計画表をつくと効果的です。1日の学習時間は、小学校で、「学年×10分」を目安にするとういでしょう。毎日、学習を行う時間を決め、習慣化することを目指しましょう。

最初の数日間を乗り越えることで、習慣が身につきます。御家庭での温かい言葉がお子さんのやる気につながります。

給食で使用する自慢の川越産!!

～川越産野菜の紹介～



川越市マスコットキャラクターときも

チンゲン菜

チンゲン菜を使った給食

川越市内では、主に福原地区で栽培されています。「チンゲン」は「茎が緑色」という意味があり、風邪などを予防するビタミンAやCを多く含みます。給食では、スープ、炒めもの、クリーム系の煮物などさまざまな料理として登場します。



給食用に届けられた新鮮なチンゲン菜
この日は30ケース届きました



※写真は一例です



青菜の五目炒めなど

チンゲン菜のミルク煮やチンゲン菜のクリームスープなどホワイトソースで煮てもおいしい★